



いろは姫と稲穂

びには、いかなる人知も、いかなる自我も立ち入ることができません。立入厳禁の「聖域」なのです。この聖域の旗印が、帆に書かれている「食心の目は其時の目」という世界なのです。ユングと天明には、新たな驚きとひらめきが交差していました。そして口を開いたのはユングです。ユング「つる姫様、ありがとう」

米は人間の主食です。生きるためのいのちの機関車です。田之助は酒好きが高じて乱れとなり、いろは姫との葛藤が長い間続きましたが、ようやく生きることの原点に気づくことができ、いのちの真実を求めることになったのです。

片やいろは姫は、田之助を鉄の一心で守り続ける中で、いのちの真実に気づきました。口から入った食物たちは、いのちの光に身を任せ、やがて原子の光に立ち返って、新たないのちの光へと生き変わります。そして、働き終えた食物たちは、外界へと帰っていきます。その一人ひとりのいのちの中でいのちが新たないのちを育て上げるまでの運

びつくりしてそれを見たユングが、

ユング「おお、よく似ているなあ」

と反応すると、こんどは天明が、

天明「本当にユングとそっくりだ

さらに神示のイチリンの仕組みの〇、にも似ている！」

ユングと天明は一段と共振共鳴していたのです。

そこに、三心クルーのもじたまの皇子が話に入ってきて、

もじたまの皇子「さつき声を出したのは私でした

宝船の旗は誰が見てもユングさんに似ているし

〇、にも似ているし神示の中心様みたいで

田之助はこの写真のことを

一粒観音様といって大事にしているようです」

と言い、宝船の旗について盛り上がりました。

酒田港の埠頭は大勢の見物客で大変なにぎわいです。黄金の光を放つ珍しい舟。それは稲穂の光でした。

単純明快にいのちの中心には食がありました

毎日の食べ物、いのちとなる次元こそ共時性発生の次元でした

ここにこそ心と物質が融合一体となり生命発生の謎がありました
食って生きる、こんな単純なところに

山ほどの理論を積み上げたことから解放されたような気分です

ありがとうございます

と、ユングの目は輝いています。そこに天明も続いて、

天明「つる姫様、ありがとうございます」

神示の一点が解けてまいりました

食が新たないのちとなる次元のちの中心・ゼロ一点の次元が

イチリンの仕組みの「〇」でありました

ここにこそ鉄の一心・食心の世界・共時の世界を見ることができました

扉開きはゼロの目、食の目、共時の目を開くことでした

いのちの真実に目覚めることこそ岩戸開き、そして心の扉開きでありました

ありがとうございます

と、二人は、つる姫にその思いを伝えたのでした。

ユングにも、天明にも、地上社会でのプライドはすべて消えてなくなっていました。

何もかもが単純明快であり、時間も空間もありません。さらに、すべてが一面一体で
新旧ありません。現実には立体に見える物質世界ですが、それを成す精神構造は、極
めてシンプルな一面一体の世界と考えられます。岩盤のような魂も、バラバラに分解さ
れて、やがては「真性魂」の意志基盤に合流します。真性魂とは、宇宙絶対調和エネルギー
を、意志性に変換して考え出した表現です。

〴〵何事も思いが先のこの世かな

地上社会で積み上げた心は次々と魂の集団となり、これが、真性魂に似て非なる「擬
似魂」なのですが、その一人ひとりの擬似魂が、その人の心の遺伝子となり、やがて
心の国に入ると、いのちの意志エネルギーに同化されるようになっていきます。生命エ
ネルギーの魂の玉は、丸く削られ、透明な玉となっていくのです。

つる姫からピックアップされた田之助というは姫も、宝船に食心の旗を掲げて、魂の
玉磨きが続いていきます。

ユング「つる姫様

宝船のご夫妻にじかに話をしたいのですがどうしたらよいでしょうか」

つる姫「ナビ大王、ユングさんを東北の酒田まで案内してくれませんか」

ナビ大王は大喜びで、モニター・システムも使わずに、いのち舟を宝船の港へと直行させました。

ユングが田之助たちと何を話したいのか。つる姫はじめナビ大王はもちろんのこと、三心クルー一同、そして天明も、どきどきしながらの行程となりました。
ナビ大王「ユング様、到着いたしました」

と、特別ていねいな言葉使いのナビ大王は、いのち舟の舳先を宝船の舳先へさまにぴったりとドッキングさせました。驚いたのは田之助というは姫です。いのち舟の黄金の光が、突然目の前に燦然さんぜんと輝いたからです。

それにしてもユングは、何を話したかったのでしょうか。ユングが、宝船に乗り移りました。その後ろには、ユングに手を引かれながら天明も付いていきます。田之助もいろは姫も、ユングと天明も、四人は大はしゃぎで喜んでいきます。

あいさつ抜きでユングが口火を切りました。

ユング「宝船のご夫妻さん、天明と一緒にです。よろしく」

スイスの国の大学様と、日月神示取り次ぎの天明様のことです。何か難解な理論を持ち出してくるのではないかと、言われた二人がただニコニコしていると、ユング「食の次元について、一言聞いてみたかったです」

宝船のご夫妻のことはつる姫様から聞かせていただきました

食心の目は共時の目という共時性発生の謎解きを知りました

かつて、スイスにいた頃、研究の盟友、ヴォルフガング・パウリと

心と物質の両極から一大接点を求めてきました

それは宇宙生命エネルギーに近づく一本の道筋でもあったのです

議論と論文を山と積んできたのですが

田之助ご夫妻は波瀾万丈の苦境の中から懸命に脱出して

いのちの何たるかを理屈抜きで吸収されました

万物普遍の、草木・虫や動物も同一スタートラインに立つ

“生きる原点”から人生を練り直してこられました

田之助さんの酒の問題が大きな比重となっていたわけですが

酒の親は米であり、米のいのちは酒となり澄みきった神酒ともなります

汚れなき透明世界に磨き抜かれる世界と人生の立ち直りは一緒だったわけですから、そこにいのちの輝く世界を見だし、食の世界から

いのち再生の次元へ魂を昇華させてこられました

だからこそ “食心の目は共時の目” という

そぎ落とされたフリーズが出てきたと思うのです

つる姫様が言われましたが、そのフリーズは

天の川では「天意の法則」の一つということですから当を得て妙です

田之助さんに尋ねたかったのは

食心の目となる食が原子次元になるいのち再生の不可侵聖域こそ

共時性の発生原理であると思ったのはどうしてなのか？

そのことでした」

ユングに問われた田之助は、やはりユングには学者の魂が光っていると思いました。

田之助は、学問はないけれど、それなりのひらめきの感覚は持っていました。そこに答えもありましたから、迷うことなく即答しました。

田之助「それは報道からのひらめきで

東京大学教授、初田哲男先生が解明された

原子核の中で働く “核力” の存在でした

その記事によれば

原子核を構成する陽子と中性子は遠く離れると引き合い

至近距離になると反発し合うということです

その “核力”こそが物質の根源的エネルギーだとするなら

共振・共鳴・共時性現象の深奥に潜む意志性のエネルギーは

『これだ！』と思ったのです

そして、その派生として間を取ることの大切さを学びました」

と、言った田之助は、急に全身から何かが踊りだしたように、口からフリーズをほとばしらせました。

間の踊り

間を取る生き方が

いのちの生き方
間の取り方一つで
人生バラ色になったり
バラバラになったり

音楽に間がないとき
楽しい音は出ない
音楽はうるさいだけ
心も体もバラバラ
間の取らない人間関係
落ち着かず
心乱れて嫌になる
間を取る心は
思いやりの心

文章も間の取り方次第で
善くも悪くもなる
車間距離のない運転は危険
ハンドルの遊びが
心地よい運転を保証する
間を取って生きることは
いのちにかなった人の道

言い終わると田之助は、無言となりました。ユングも無言となりました。二人の間に、原子の“核力”が働いたようです。そのとき、いのち舟のつる姫から連絡が入りました。

つる姫「田之助さん、大丈夫ですか

天の川の天意の法則には

泣いても守れ、鉄の一心自己調和”というものがあります

いのちのリズムには

動・静・ゼロ（零）というものもあります
それらは

何事も、間の取る生き方を大切にして
いのちに添った生き方を示しています
とても役に立つことを言ったのですから

そんなにしょぼくなくてもいいですよ、田之助さん
と、つる姫は、田之助をやさしく包んであげました。

ユングは、一種のショック波動の渦の中にありました。まさか在野の民間で共時性の真相に迫る話を聞くことになるとは天地逆転の思いでしたが、それはまた大きな喜びでもありました。ユングは気分も晴れやかに天明に帰りの合図を送りました。天明もまた同じく、神示の発生源を暗示させられた感覚に浸っていました。

ユングは天明の手を引いていのち舟に戻り、つる姫に報告をします。
ユング「つる姫様、ありがとう

心の国には不思議な方もおられます
宝船の田之助というは姫の組み合わせも不思議です

ましてや宝船は天の川から下ってきたという

舟の腹には「食心丸」と書いてあった、これも不思議です
いろは姫はいろは「四十八」というし

ときどき天の川から数字と文字の心結びがあるというから
とても不思議なことです

田之助は酒が原因で米から育てられ
酒から心磨きをされたというから不思議な話です！」

ここでつる姫はユングを止めました。
つる姫「ユングさん、どうしたの

ユングさんらしくもない
不思議不思議と不思議を並べて、心の国には何の不思議などありますか！」

ユング「そうだった
つる姫様

不思議は卒業していたはずなのに、まだ地上世界の癖が残っていました
不思議も偶然もない世界にいることを忘れていました

すべてがストレートの真実だけなのに宝船と出会ってから
いささかシヨック状態でした

失礼しました」

と、ユングは決まりが悪そうに、つる姫を見つめていました。

隣にいた天明は、ユングの不思議三昧には一向に気づく気配もなく、何か一心に考え込んでいます。それを見ていたナビ大王が、ナビ画像にスイッチを入れて天明の世界を映し出してみると、天明の思いが流れ出しました。

天明「神示発生源はどこなのか？」

数字と記号の送り主はだれなのか？」

神主代行時代の四十七歳のとき成田の麻賀多神社で始まった自動書記は

どなたのご意志なのか？」

十六年間もどうして？」

皆目不明の神示の内容を心眼開いてくれる使者が出現

その方は画家・数学者・哲学者の肩書を持つ「小田野女史」

彼女を向けたのは誰なのか？」

酒好きの自分と酒好きの田之助がダブること、不思議だ、不思議だ……」

ナビ大王は画像を停止しました。その一部始終を見ていたつる姫は、

つる姫「天明さんも不思議の連発、ユングさんと同じですね」

とつぶやいて、

つる姫「ユングさん

天明さんもあなたと同じ不思議世界にいるようだから教えてあげて

天の川の清流を汲んでいつて天明さんにあげてくださいいな」

ユングは、これはえらいことだと思いました。

心の国には、不思議も偶然もないことは先刻つる姫から一喝されたばかりです。天明も同じことで、二人してつる姫を悲しませているのは申し訳ないことだと、ユングは、天の川の浄水をナビ大王に汲んでもらい、つる姫に代わって天の意をどうとうと伝えたのです。

ユング「天明さん、天の川の浄水を飲んでから聞いてください

この話は

私がつる姫様から聞かされたことをそのまま伝えるのですから

そのつもりで聞いてください

私たち二人は、天の声の命を受けて

特別につる姫様のいのち舟に乗船している身分です

天の声は

つる姫様を心の国の縁結びの大使に任命して降ろされています

今回、宝船の田之助というは姫に会わせてくれたのも

これから先々結ばれてゆく出会いの縁は

時空を越えた中で組み立てられていきますから

その出会いの道筋と結果はつる姫様にはわかっています

この世界には不思議も偶然もあります

宝船の二人と会ったのもこれから進む道筋における

天の道明かりと思えばよいのです

この先々のことは、私たちには何一つわからないけど

すべてつる姫様の心の絵図面に収まっています

天の川の天意の法則の一つに

“心の絵図面”というまったく白紙の奇妙な絵図面があります

そしてまた“いのちの裏時計”というものもあります

天意の法則に出てくるものは

生命エネルギーの真実に基づくことばかりです

今、天明さんと二人でいるところは心の国ですが

いわば地下の世界であり心と物質の基礎となる世界なのです

その上が、地上世界の現実社会となります

心の国は不思議も偶然もなく

時間も空間も距離という概念もありません

また、一面一体で過去・現在・未来が一面に収まっている世界なのですが

地上世界はまるで逆になっています

不思議なことばかりで、偶然ばかりで

時間が流れ、空間距離が存在して複合立体の多重構造の現実生きております

私も天明さんも地上世界から心の国に永住権を移している住人です

心の国で結ばれることは、そのまま地上現実の姿となって立体化するのです

心の国の出会いは、いつしか必ずその現象体として地上世界に出てまいります
心の国には時間空間はありません

宝船の田之助というは姫と出会ったのは
地上世界でもその流れがいずれ具体化するものです

そのことは時計に例えることができます

目に見えない中のメカニズムが心の国であり地下の世界ということができません
そのメカニズムが時計の命です

表の文字盤の針が現実世界に具現化した姿となります

なにことも思いが先のこの世かな

これなどは心の国に立っている看板です

“いのちの裏時計”をぴったりに表しています

「想い」は物質化するエネルギーを秘めているから

その警句として天の川には

“泣いても守れ鉄の一心自己調和”という立て札が立っています

暗い心で世を乱さぬように、各人の調和心を促しています

以上のことをつる姫様から聞かされています
どうですか、天明さん

ユングの長い話が終わりました。

天明は、広い心で包むようにして聞いていましたから、理解できたようです。

天明「ユングさんの話はおおむねわかりました

想いは現実化すること

また、私たちは時計の中の住人であること

不思議は全然ないこと

そして、心の絵図面は白紙でいただいていること

その白紙は、今の心が光の点となって、点、点、点、と図面を描き出すこと

その明かりの方向性を一目見て

つる姫様の縁結びの判断が始まるという理解です

天明がユングに感想を伝えているのを、つる姫は聞いていました。

つる姫「そのとおりです、天明さん

心の絵図面は今の心の連続性がどのような方向性を持っているかを

判断する道明かりとなるのです

その心の明かりといっても

心の国では、万人が万色の心をつる草であるから

その花の色や点滅する光の微妙な変化で

どちらからどちらへ、こちらからこちらへという具合に

総合的に重ね合わせて見た上で縁結びの判断をしなくてはなりません

ここで話を戻してみるなら

タマヒロ社長の呼びかけで全国から集まってきた

スピリチュアル・ツアーの参加者がソウル市に出かけました

そのときのメンバーでも縁の濃度にはそれぞれの濃淡があります

私が縁結びに選んだ方は広島のおサダ姫と東北の田之助の二人でした

それに並行して

精神世界を探求されていたタマヒロ社長と

岡本天明さんが縁を結ばれることになりました

その縁の流れに乗って天明さんというは姫の縁をも結んだのです

いろは姫は、ソウル・ツアーのタマヒロ社長とはすでに縁結びができていた

田之助の妻です」

つる姫はここまで話すと、喉の渴きを癒すために、ナビ大王に天の川の浄水を頼みま
した。

ナビ大王「つる姫様

天の川の浄水をお持ちしました」

ナビ大王は、光のコップ一杯に、天の川の浄水を差し上げました。手にした浄水を、
目を閉じて静かに飲み終えたつる姫の全身からは、黄金色の光がほとばしっていました。

つる姫「ありがとうナビ大王

天の親様から、心の国に遣わされてから初めていただきました

心に澄みわたり、やはりすてきです

天の川からは心の国に数多くの支流が流れています

初めに紹介した広島には中央を流れている「元安川」があります

また、宝船が下っていった東北までは

サイジヨウの川が最上川と名を変えて流れ着いています

ナビ大王の舵取りするいのち舟から心の国を見渡すと
天の川からは、数え切れないほどの支流が流れています」

ここまで話してから再びつる姫は、天の川の浄水をナビ大王にお願いしたのでした。飲み終えるまでつる姫を見ていた三心クルーは、一斉に立ち上がって、声をそろえてお願いをしました。ここまで陰にながら働いていた、かずたま姫・もじたまの皇子・いろたま姫の、心の蔵の責任者です。

三心クルー「つる姫さま

天の川のお水、私たちもいただきたいのですが

お願いできますでしょうか」

と、若々しい声でつる姫にお願いをしました。思わずつる姫は、感激して立ち上り、つる姫「うれしいこと、皆さん、さっそくナビ大王に頼みましょう」

それを聞いたユングと天明も、この機会を待っていたかのように、浄水の恵みに便乗させてもらいました。

両手に六本のペットボトルをぶら下げてナビ大王がうれしそうに戻ってきました。それを見たもじたまの皇子は、

もじたまの皇子「大王殿、一本多いではありませんか？」

ナビ大王は、「皇子は見るところが違う」と思いました。三心クルーが三名で、ユングと天明二人合わせて五名。ナビ大王が手に持っているボトルは六本。「俺が天の川に顔を入れて飲んできたのに自分の分まで持ってきたと思つたのだな…」

もじたまの皇子「大王殿、腹一杯に天の川が流れていますよ」

そう言つて皇子が無邪気に笑いだすと、みんなつられて大笑いです。つる姫はむせ返つて喜んでいました。そのひびきは心の国中に伝わり、現実界にも伝わって、一気に明るいひびきとなって戻ってきたのです。

つる姫「もじたまの皇子さん、楽しかったですよ

さて、天の川の支流の話でしたけど

心の国はいつまで見ていてもあきないでしょう

特に元安川の川原は寶石のようにキラキラ輝いています

天の親様からその元安橋に遣わされた日を私は忘れてはいません

そして、心の国の北を見ると、先ほどの最上川が見えてくるでしょう

港には帆を張った黄金色に輝く宝船が見えます

先ほどユングさんと天明さんがお会いしたばかりの

田之助というは姫が見えていますよ

上を向いて二人でこちらを見ています」

つる姫の話聞いた天明の心は、ユングと二人で宝船を訪ねたときからでしたが、いろは姫の心結びという「数字と文字」がどうしても離れませんでした。

天明の中で、自分が一六年間にわたって取り次いだ日月神示と、いろは姫の心結びの数字と文字がオーバラップして次第にふくらんでいたのです。

心の国に移住する前の現実生活では、天明はまるで異星人のように受け取られがちでした。そしていろは姫の数字と文字のことは、夫の田之助でさえも、はじめは素直に理解できませんでした。

天明は、いろは姫にコンタクトを取ることを、つる姫に相談してみました。

天明「つる姫様

私のお願いを聞いていただけますか」

つる姫「天明さんの願いとはどんなことですか」

天明「今、宝船からこちらを見上げていろは姫とのコンタクトについてなんです

自分は心の国に永住権を持つ住人ですが、いろは姫は、現実界の住人です……」
天明がそこまで言いかけたとき、つる姫から待つてくださいという合図が出されました。

つる姫「天明さんは忘れたのですか

あなたとタマヒロ社長が縁結びを組んだとき

その後、いろは姫とも縁結びをしたじゃないですか

縁エネルギー光で交互に魂を乗せて発信したことを忘れましたか

改めてコンタクトの手順は必要ないです

自由に発信をしたらいいですよ」

そう言われて魂を交信したときのことを思い出した天明は、さっそく、いろは姫との交信を始めようと思いました。そのとき、再び、つる姫から、
つる姫「天明さんは知っているかどうか

いろは姫のような現実界の住人が心の国に出入りするには

心の国で発行する

『往来許可書』（往来カード）を持たなくてはなりません